



認知症のリハビリに、カラフルなウェアを活用。

東京都日野市にあるロベリアは、認知症を専門にした介護老人保健施設。多摩川畔の自然豊かな場所で、症状に応じたりハビリや看護・介護を行っておられます。今回は「ローラ アシュレイ」のユニフォームをご着用いただいている看護師の橋本さん、寺沢さん、黒川さんに、看護の現場でユニフォームに求めることなどを伺いました。



カラフルなウェアを自由に着るスウェーデン方式。

こちらではスタッフさんの中でも看護職の方に「ローラ アシュレイ」をお召しいただいていますが、採用の経緯をお聞かせください。

寺沢さん：最初に看護師長が、このユニフォームを気に入って、自分が着てみて良かったから、みんなで揃えようということになりました。

黒川さん：実はロベリアには、決まったユニフォームはないんです。職種を区別するためにボトムの色だけは指定されているんですが、上は個人個人が好きなものを選んで着ています。

お一人ずつお好きなウェアをお召しになるのは、何か理由があるのでしょうか？

寺沢さん：カラフルな色彩が認知症の方への刺激になるということで、あえてそれぞれが好きな色のウェアを着るようになりました。

黒川さん：利用者さんの目からの刺激のために、なるべくきれいで明るい色を選ぶようにしています。ほかの職種の方も赤や黄色など、カラフルなトップスを着用していますね。

リハビリのひとつとして、カラフルなウェアを取り入れておられるのですね。実際に利用者さんからの反応はいかがですか？

橋本さん：よく気付いて、反応してくれますよ。「あら、きれいな色ね」とか「どこで買ったの?」「私もその色が好きなの」と話しかけてくださる方もいらっしゃいます。

寺沢さん：色が会話や記憶の糸口になっている感じがですね。

その取り組みは、どんな経緯で始められたのでしょうか？

橋本さん：英世会では、高齢者ケアについて学ぶための海外研修を定期的に行っています。カラフルなウェアも、実はスウェーデンへの研修がきっかけで導入されたんです。向こうの施設では「制服」という決まったものではなく、自由にカラフルなものを着ているということで、ロベリアでも好きなものを選ぶようになりました。

海外研修がきっかけだったのですね!国内の研修や勉強会などにも、よく参加されるのですか？

寺沢さん：多くの研修機会があります。スタッフも自分から積極的に参加していますね。

橋本さん：認知症のリハビリには多くの手法があるので、いろいろ調べて勉強しています。ここでも音楽療法や料理教室を行っていますし、先日は認知機能の回復に効果があるといわれる回想法を取り入れた夏祭りも行いました。



久しぶりのナースウェアに、気分もシャキッ。

では続いて、ユニフォームの着心地などをお聞かせいただけますか？

橋本さん：横ファスナーで脱ぎ着がしやすいですね。かぶりだと、ポケットの中身をすべて出さないといけないのが面倒。これはスムーズに着替えられます。

寺沢さん：私はポケットが多いところがいいですね。このユニフォームになってから、ウエストポーチを使わなくなりました。両サイドのポケットにたっぷり入るから便利なんです。ポケットの中も3室に分かれていて、小物が仕分けできるところも気に入っています。

周りの方からの評判はいかがですか？

黒川さん：利用者さんのご家族からすごく好評なんです。「おしゃれたね」って言っていただくことが多いです。

寺沢さん：他のスタッフからも、「それいいね」と褒ましがられてます(笑)。

橋本さん：これを着ると、痩せて見えるんですね。エリがないから首元がすっきり見えるし、フカプカしてないからほっそり見えるのかも。

みなさん、喜んでご着用いただいているんですね!

橋本さん：利用者さんから見て看護士と認識しやすいせいか、お話を聞いていただきやすくなりました。

寺沢さん：最近はボロシャツなどが多かったので、きちんとしたナースウェアを着るのは久しぶり。袖を通すと、やっぱり気持ち引き締まりますね。

お仕事の効率アップだけでなく、モチベーションアップにもお役に立つことができ、大変うれしく思います。